

資料 2

平成20年緑化推進運動功労者
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

(五十音順)

[個人]

中村 利郎 (山口県岩国市)
渡部 定義 (愛媛県松山市)

[団体]

加子母中学校緑化少年団 (岐阜県中津川市)
木場公園友の会 (東京都江東区)
櫛引花と緑の会 (山形県鶴岡市)
梅檀山花と緑の推進協議会 (富山県砺波市)
ソニーセミコンダクタ九州株式会社
大分テクノロジーセンター (大分県国東市)
田老町漁業協同組合女性部 (岩手県宮古市)
どんぐり1000年の森をつくる会 (宮崎県都城市)

[学校]

神戸市立雲雀丘中学校 (兵庫県神戸市)
高根沢町立阿久津小学校 (栃木県塩谷郡高根沢町)

[地方公共団体]

大桑村 (長野県木曾郡大桑村)
屋久島町 (鹿児島県熊毛郡屋久島町)

[個人]

なかむら としろう
中村 利郎

(大正13年5月31日生 83歳)

住 所 山口県岩国市錦町野谷2034番地
職 業 農林業

<功績の概要>

西中国山地の森林地帯で林業を営む同氏は、地域の中核的林家として、「山を育てにや村はたたぬ。山が荒れれば、所帯が荒れる。人の心もまた荒れる」を信条に、長年にわたり、自ら所有する森林の整備とともに、地域材である寂地スギの育苗などの技術開発や、マツタケの生育環境の整備による収入の拡大など複合経営にも積極的に取り組んでいる。

このような林業経営の結果として、同氏の所有する森林は、地域の見本林、展示林になり得るほどの良好なものであり、県内最大の流域を有する錦川の上流域において水源の涵養をはじめとした森林の多面的な機能の発揮に貢献しているところである。

また、同氏は豊かな経営経験を活かし、県指導林業士として地域の林業後継者の指導、育成に当たるとともに、県林業研究グループ連絡協議会会長として、小学生を対象とした森林・林業体験学習の実施や、県林業研究グループ連絡協議会女性部会の設立など幅広い活動にも取り組まれており、今日の林研グループの活動の基盤を築いた功績は大である。

[個人]

わたなべ さだよし
渡部 定義

(大正9年11月20日生 87歳)

住 所 愛媛県松山市永木町1丁目2-12

<功績の概要>

同氏は、昭和42年4月石手川緑地永木公園(2,900㎡)設立以来、平成17年3月30日まで39年に亘り、同公園管理協力会長を務め、同公園の清掃、除草等公園管理に尽力した。

更に、昭和50年4月より平成11年3月まで24年間に亘り、松山市全体の公園管理協力会の上部組織である松山市公園管理協力連絡協議会長の要職を務め、松山市の公園行政に多大な貢献を果たした。

平成17年には都市緑化功労者国土交通大臣表彰を受賞し、現在に至るまで石手川緑地永木公園管理協力会の一員として、継続して年間を通じ毎日、公園の清掃等の美化活動に携わるとともに、ラジオ体操等地域のコミュニティ活動にも積極的に参加し、後進の指導にもあたっている。

[団 体]

かしまちゅうがっこうりよつかししょうねんだん
加子母中学校緑化少年団

住 所 岐阜県中津川市加子母3357番地
代 表 者 校長 福田 正晴

<功績の概要>

加子母中学校緑化少年団は、「郷土の自然を愛し育てる活動を通じて、緑の大切さを学び美しい自然環境づくりを目指す」を目的に、昭和53年に創設されて以来29年間もの永きに亘り地域の緑化活動に取り組んでいる。

学校に隣接する民有林約2haを「学びの森」として借り受け、地域の森林づくり名人を「ゲストティーチャー」として招き、間伐や植栽等の林業体験、炭焼き体験や森林散策を実施している。平成15年には、地元林業グループや森林組合等により組織される育成会「かしも学びの森協議会」が結成されるなど、地域と一体となった少年団活動を進めている。平成18年の全国育樹祭大会会長賞受賞後は、地場産業である「林業」の、特に「間伐」の学習に力を入れ、人工林見学や森林講話を通じて、間伐の意義を考え、間伐への理解を深めた後、間伐実習に取り組むようになった。また、間伐材の有効利用として炭焼きによる「炭ポット」づくりや炭ポットを活用した「コケ玉」づくりを行い、地域に配布している。

そのほか、平成17年には内モンゴル地区での緑化運動に役立ててもらおうと苗木づくりにも取り組むなど、地域緑化はもとより国際的な緑化活動に努めている。

[団 体]

き ば こ う え ん と も か い
木 場 公 園 友 の 会

住 所 東京都江東区平野4-6-1 木場公園サービスセンター
代 表 者 会長 吉田 外志夫

<功績の概要>

同団体は、平成4年の都立木場公園開園時から園芸協力として参画していた自主的ボランティア(個人・団体)や開園後に園内で開催された園芸講座の受講者などを母体として結成され、その後、以下のような経緯を踏みつつ、今日まで緑化推進活動を継続・拡充させてきた。

平成9年、まず「木場ミドリアム友の会」の名称でボランティア団体として正式に組織化され、当時、園内に設置されていた「緑の相談所」との連携・協働によって、団体としてのボランティア活動を開始した。

平成12年3月、「緑の相談所」が閉鎖されることとなったのを機に、同年6月18日、名称を「木場公園友の会」と改め、園内南地区の都市緑化植物園を中心に、花壇などの維持管理になお一層の力を注いできた。

その後、平成16年夏から南地区・噴水前花壇、同年秋から中地区・大花壇、平成18年春から北地区・イベント広場7花壇、など年々作業範囲を拡大して内容規模ともに発展し、現在に至るまで、木場公園に関わる複数のボランティア団体の中核的存在として、他団体とも連携しつつ園内の緑化推進に多大な貢献を果たし続けている。

[団 体]

くし び き は な み ど り か い
櫛 引 花 と 緑 の 会

住 所 山形県鶴岡市上山添字文栄100

代 表 者 会長 齋藤 三紀

<功績の概要>

櫛引花と緑の会は、「美しく住みよいまちづくり」を合い言葉に、昭和53年の同会設立時から櫛引地域全域で旧櫛引町の花である「サルビア」の植栽活動を行っている。

活動状況としては、同会会員(個人57名、企業34団体)で、床づくり、花植え、水かけ、除草などをこまめに行い、毎年美しい花を咲かせている。

国道112号(鶴岡市下山添字茶屋川原～一里塚地内)の植栽帯においては、昭和59年から植栽を開始し、「ドライバーに心のゆとりを持って運転をしてほしい」という願いを込めて道路美化に努めている。

また、国土交通省が推進するボランティアサポートプログラムの協定団体にもなっており、道路管理者との協働により地域にふさわしい道づくりを進めている。サルビアを美しく咲かせるだけでなく、美しく住みよいまちづくりにも貢献し、今日まで継続した美化活動を行っている。

[団 体]

せんだんやまはな みどり すいしんきょうぎかい
梅檀山花と緑の推進協議会

住 所 富山県砺波市井栗谷6552

代 表 者 会長 宮木 一夫

<功績の概要>

昭和61年、梅檀山婦人会が中心となって「花を通じて交流の場を広げ、美しい地区にしよう」の提唱のもと花壇づくりを始めた。その後、自治振興会を中心に婦人会、公民館、老人会など地域住民が一体となった「花の村づくり」を進め、平成4年には「梅檀山花と緑の推進協議会」を設立し、地域をあげた緑化意識の高揚と地域の活性化に取り組んでいる。

こうした緑化活動の拠点として井栗の森夢花壇に加え平成16年からは近隣の山野草や風倒木、民具を活用した梅檀山運動広場花壇を造成し、地区住民全体の協力のもとに維持管理するとともに、集落毎の花壇の充実、花街道の拡張整備、自然に群生する山野草の保護増殖のほか、地元にある「夢の平スキー場」のグレンデをコスモスでいっぱいにするなど、地域のものを活用しながら自然環境に調和する彩り豊かで花いっぱいの村づくりを進めている。

会員の熱心な花づくりの取り組みにより、県内外の花壇コンクールでも優秀な成績を保持し続け、県内の模範となる花壇として推奨花壇に認定され、多くの見学者が訪れている。

[団 体]

きゅうしゅうかぶしきがいしゃ
ソニーセミコンダクタ九州株式会社
おおいた
大分テクノロジーセンター

住 所 大分県国東市国東町小原3319番地2
代 表 者 大分テクノロジーセンター長 石井 正美

＜功績の概要＞

昭和60年の操業開始から、構内の自然林を含んだ緑地について中長期に渡る管理計画に基づいた企画型の維持管理に努めている。

環境ISOの取組を開始した平成6年からは事業計画にリンクした進捗管理とレビューにより継続的かつ発展的な運用を行っており、日常管理はもとより環境管理行事として社員参加も積極的に呼びかけた活動『社員緑化デー、環境見学会』や地域住民・児童・生徒などを招いた『地域交流会』を開催し、緑化活動や環境管理活動を通じた地域住民との交流を図っている。

平成15年6月には、地域貢献を目的としたユニバーサルデザインの『ソニー潮の香公園』を整備して開放し、地域の地球環境保護意識の醸成に努めている。

構内の自然林においては、これまでに長い時間と手間をかけて、見通しを妨げる竹林等の伐採から始まり、適所への植樹、鳥用巣箱の設置、車椅子の通行も可能な散策道を設ける一方、剪定枝等をチップ化(チップング用機械をレンタルしての従業員による作業)し、緑地帯に散布して腐葉土と成し、樹木等の生育に適した土壌を造ることで、カブトムシ等、生物群の生息空間を形成している。

[団 体]

たろうちょうぎょぎょうきょうどうくみあいじょせいぶ
田老町漁業協同組合女性部

住 所 岩手県宮古市田老字荒谷2番地
代 表 者 部長 入澤 幸子

<功績の概要>

同部では河川環境の保全と主要漁獲物であるアワビ、ウニなどの漁獲増のため、「磯焼け」を防ぎ、餌となるコンブなど海藻類が繁茂するよう、海岸から約10 kmの奥山を借用し「婦人の森」として平成5年からコナラを主体に広葉樹の植樹を継続している。

当初の参加者は20人台、300本ほどの植樹だったが、近年は部員に限らず一般参加者もあり、植樹数も近年は毎年1,000本を超えている。「森は海の恋人」と、森と川、海の関連性を研究、植樹を実践している先駆者から学んだりもしながら継続してきた植樹活動は、13年目となる平成17年で総数が1万本に達した。また、海を守る活動としては合成洗剤追放運動も30年以上続けている。

これらの活動が認められ、平成15年の「みどりの日」に環境大臣表彰を受けた。

その後も植樹活動は継続し、現地には「婦人の森」の看板も掲げている。

また、その活動は県内小学校にも刺激を与え、体験学習として同地に植樹を継続するようにもなっている。

[団 体]

ど
ん
ぐ
り
1
0
0
0
年
の
森
を
つ
く
る
会

住 所 宮崎県都城市山之口町富吉2985-26

代 表 者 会長 樋口 信義

<功績の概要>

宮崎県都城市一帯を流れる大淀川の上流域には、雨水を浄化し、それを大淀川に環流し、川や森、そしてそこに息づく生命体に大きな恵みを与えてくれる照葉樹の森があった。

その森本来の機能を取り戻し、私たちの生活を育む自然風土を後世に引き継ぐことを目的に、どんぐり1000年の森をつくる会は、平成8年に結成し、照葉樹の森を再生するための活動を開始した。

翌年から、毎年、大淀川流域の国有林にどんぐり(シイ・カシ)の苗木の植樹を続け、その数は80,000本を超えた。

最初に植えた苗木は、今では5~6mほどに成長し、森の沢筋には水が流れ、照葉樹の森の再生に着実な成果をあげている。

また、「どんぐり株主制度」というだれでも協力できるユニークな制度を創設し、市民参加型のシステムにより、県の森林づくり、森林教育の推進に大きく貢献している。

[学 校]

こうべしりつひばりがおかちゅうがっこう
神戸市立雲雀丘中学校

住 所 兵庫県神戸市長田区雲雀ヶ丘1丁目1番1号
代 表 者 校長 小林 孝雄

<功績の概要>

同校では、平成10年度より総合的な学習の地域に根ざす活動の一環として、学校の北部に位置する「ひよどりごえ森林公園」での里山管理活動(53ha)を行っており、地域里山ボランティア、県、神戸市、公園管理事務所等のサポートを得て、森林を守る活動に参加することで、自然との共存の意識を高めていく取組を行っている。その活動が、平成16年度全日本学校関係緑化コンクールの学校林等の活動の部で特選となり、農林水産大臣賞を受賞した。

主な活動内容は、①森林の荒れを防ぐとともに、眺望が良く人々の憩いの森林公園となるようにするための山道の整備、階段の製作やベンチ・見晴台の製作。②動物たちの餌となる実のなる樹木の植林や水辺のコーナーにトンボ等の昆虫や鳥たちが集まるビオトープの池づくり。③放置しておくとも荒れてしまう森林の枝打ちや間伐などによる管理などである。

このような取組は、平成16年度に、(社)全国林業改良普及協会が作成した「森で学ぶ活動プログラム集3」の中に模範的な活動事例として取り上げられている。

[学 校]

たかねざわちょうりつあくつしょうがっこう
高根沢町立阿久津小学校

住 所 栃木県塩谷郡高根沢町大字宝積寺1178
代 表 者 校長 五月女 哲夫

<功績の概要>

同校は、明治7年に創立、昭和24年に現在地に校舎が新築された。減少しつつある雑木林を守るため、平成6年、地域の協力により、学校に隣接する自然林を「たんけんの森」、「げんきもり森」と称して設され、「自然から学び、自然について学び、自然のために学ぶ阿小つ子の育成」をテーマに学校と地域が一体となり、活動に取り組んできた。また、学校、PTA、地域の積極的な協力の下、良好な維持管理を行っており、児童の様々な学習フィールドとして活用しているほか、地域にも広く利用されており、自然と児童のふれあいの場、親子の交流の場、地域との交流の場の3つの役割を果たしている。

また、全児童が作成する「緑の絵本」は、駅前ギャラリーでの絵本展や公民館等への貸し出し、幼稚園児等への読み聞かせなどに利用され、児童の豊かな表現力が養われ、自然に対する優しさと自然環境を守ろうという意識が高まるだけでなく、地域へ発信することで、地域全体のみどりに対する意識の高揚が図られている。

他にも緑の少年団による緑化活動に積極的に取り組み、福祉施設や地域の方とみどりを通して交流するなど、地域の緑化推進に大いに貢献している。

[地方公共団体]

お お く わ む ら
大 桑 村

住 所 長野県木曾郡大桑村大字長野2778番地
代 表 者 村長 長岡 始

<功績の概要>

大桑村では、昭和50年より森林整備に対し補助金を嵩上げし整備を推進するとともに、平成17年度からは上下流の木曾川「水源の森」森林整備協定推進事業により「水道水源環境保全基金」及び「木曾森林保全基金」を利用した整備への助成も行い、森林整備を意欲的に行っている。

また、昭和57年から当村を「緑の休暇村」に指定した愛知県師勝町（現北名古屋市）など都市住民との交流が始まり、毎年行われている植樹祭・育樹祭に参加し、上流の森林の保護及び水資源確保のための広葉樹の植樹活動等を実施、平成9年からは、森林整備により間伐された木材の利用のため間伐材で「木曾ヒノキ三味線」等を製作し奏でる「ヒノキを奏でる里づくり事業」の取組を始め、村内のみならず、都市住民の森林及び水資源、緑化に対する意識高揚、普及啓発に大きな成果を挙げている。

このほか、森林づくり・緑化推進を担う若者の育成や、森林所有者の高齢化、後継者不足により森林の整備が遅れている地域において、村とボランティアが協力しつつ森林づくりを行っている。

[地方公共団体]

やくしまちょう
屋久島町

住 所 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1593
代 表 者 町長 日高 十七郎

<功績の概要>

旧上屋久町林地活用計画の理念である「森・水・人のふれあいを基調とした森林文化の創造」に基づき整備された屋久島総合自然公園の植物園では、自然資源の価値を損なうことなく活用していく方策として、これまで屋久島の固有・希少植物を実生より育て、保護・増殖を実施してきた。現在では、屋久島を代表する固有種、ヤクシマシャクナゲ(4万鉢)をはじめ21種類の植物を植物園内に植栽し、緑化思想の高揚をはかると共に、希望者に対しては販売も行っている。また、近年、問題が深刻化しているヤクシカによる食害を防ぐための対策として、ガードフェンスの設置(648m)と、遊歩道の滑り止め対策(662m)などを実施している。

公園部分は、近隣する宮之浦川の清流と自然にふれあえる場所として、各地域の育成会によるキャンプや、各幼稚園・小学校による一日遠足、高齢者によるグラウンドゴルフなど、各種団体や町民に気軽に利用されつつあり、環境学習の場、憩いの場として親しまれている。

また、みどり豊かな郷土づくりや地域森林業の振興を図る目的で、植樹祭の場所として利活用され、最近では、本町の理念と合った形で「やくしま森祭り」と題し、環境をテーマにしたコンサートを野外ステージで開催している。